報(B2) ⑫特 許 公

昭63-23623

@Int_CI_4 H 01 M 10/54 10/44 識別記号

庁内整理番号

2949公告 昭和63年(1988)5月17日

8424-5H A-8424-5H

発明の数 1 (全2頁)

❷発明の名称

鉛蓄電池の容量回復法

判 昭61-11574

②特 願 昭54-19200 ❸公 開 昭55-111079

23出 願 昭54(1979)2月20日

❸昭55(1980)8月27日

者 ⑦発 眀 砂発 明 渚

辺 渡 若 松

昭 夫 正 史 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器產業株式会社内 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

顋 松下電器產業株式会社 ⑦出 人

大阪府門真市大字門真1006番地

20代 理 人 弁理士 中尾

ム 男 外1名

審判の合議体 審判長 高見 和明 審判官 安藤 元 三 審判官 飯 尾 良 司

99参考文献 特公 昭43-3334(JP, B1)

特公 昭47-48333(JP, B1)

1

切特許請求の範囲

過放電により充電不能となった鉛蓄電池に、 交流電圧を印加するか又は逆充電して正極格子表 面と活物質との界面に生成した半導体的物質を破 壊し、その後に正規の充電を施すことを特徴とし 5 た鉛蓄電池の容量回復法。

発明の詳細な説明

本発明は、過放電によって充電不能となった鉛 蓄電池の容量を回復させる方法に関するものであ る。

過放電によつて充電不能となつた蓄電池を回復 させる従来からの方法は、電池に高い電圧をかけ て微小電流により充電する方法が唯一のものであ つた。この方法では、特殊な充電器を用い、かつ とが問題であった。この回復充電時間を短縮する ために大きな電流で充電を行なつた場合、電池が 発熱し、電池の性能及び寿命を損うおそれがあつ た。

本発明は過放電により充電不能になった蓄電池 20 では正極格子表面と活物質との界面に生成した粗 大粒子化した硫酸鉛などが半導体的な整流作用を 呈し、正規の充電方向に電流を流す機には高い内 部抵抗を示すのに反し、放電方向へは比較的小さ のような状態の蓄電池に交流電圧を印加すること により、最初は充電方向よりも放電方向へ流れる

2

電気量が多いが、漸時両方向が等量もしくはそれ に近くなることを見出したものである。そしてこ の初期放電の後、通常の充電方法で正規の充電を 可能にしたものである。

以下、本発明の実施例を図により説明する。第 1図において充電器の全てのスイッチSWをa側 に接続すると定電圧回路Cが動作して正規の定電 圧充電回路が構成され、b側に接続すると電池 1 に交流電圧2が印加される回路が構成される。な 10 おTは降圧トランス、Rは全波整流器である。 今、スイツチSWをa側に倒して充電できなかつ た過放電状態の電池1を充電端末に接続し、スイ ツチSWをbに倒して接続状態とし、交流電圧を 電池1に印加して発光ダイオードしが点灯した時 回復完了までに長時間を要し、実用性に乏しいこ 15 点で再びスイッチSWをa側に倒して正規の充電 を行なう。

> このような充電により容量の回復を図つた電池 について過放電以前の初期容量に比べると次のよ うな状態であつた。

初期容量

3.2Ah

回復充電後の容量 3.1Ah

容量回復率 96.9%

同様の原理により、第2図に示すトランスTの ない充電回復回路において過放電状態の電池1に い内部抵抗を示す性質を有することを利用し、こ 25 高圧の交流を印加した後、定電圧充電器に接続し て正規の回復充電した場合の回復情況も前記の結 果とまつたく同様であつた。

3

前述のごとき過放電電池の特性から第3図に示 す充電回路を用い、連動スイツチSWをa側に倒 して正規の充電を施しても電流が流れない電池に ついては、スイツチSWをb側に倒して放電方向 電流を流して逆充電し、その後スイッチSWをa 側に倒して充電を行なつても、ほぼ前記と同様の 回復率が得られる。

このような本発明の容量回復法によれば、過放 電して正規の充放方法では充電不能な蓄電池であ っても交流電圧を印加するか、又は逆充電を施す 10 他の実施例における回路図である。 ことで、正極格子表面と活物質との界面に生成し た整流作用を呈する半導体的生成物質で破壊し て、この物質の通電を可能とすることで、短時間

で充電回復可能な状態にすることができ、実用的 に大きな価値がある。

さらに本発明では通常の充電回路に低廉な回路 を付加するか、又は別個に用意することで電池の 5 容量を回復させることができるので経済的価値が 高いという利点がある。

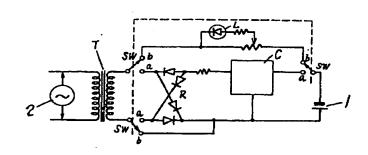
図面の簡単な説明

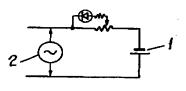
第1図は本発明の実施例における容量回復のた めに用いた充電回路を示す図、第2図、第3図は

1 ······ 過放電した電池、2 ······ 交流電源、T ··· …トランス、R……全波整流器、C……定電圧回 路、SW·····スイッチ。

第1図

第2図





第3図

